

Collection of Songs for  
Primary Schools and Homes.

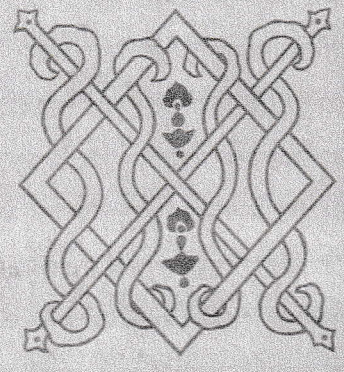


# 童謠唱歌名曲全集

田村虎藏・福井直秋・小松耕輔・共編



第  
三  
卷



東 京 京 文 社 刊 行

EDITION · KYOBUNSHA · TOKYO

1929年15月 梅澤 批 2000/01/00 10 15 57



155.

故郷の塵家

大童球溪歌  
〜イ ス 曲

壁に打たれつつ【♩=104】

First system of musical notation. The vocal line (treble clef) contains the lyrics: マカハタミ. The piano accompaniment (grand staff) features a rhythmic pattern of eighth and sixteenth notes.

Second system of musical notation. The vocal line contains the lyrics: 1. イクトセ 2. ムカシを. The piano accompaniment continues with similar rhythmic patterns.

Third system of musical notation. The vocal line contains the lyrics: フルサトキヲミレバゼ ナクハナカ たるか そよぐか ぜ ムカシを. The piano accompaniment features a more complex rhythmic texture.

Fourth system of musical notation. The vocal line contains the lyrics: ナクトリソヨグカゼ カドベノ ャ つすか すめる みづ あ さゆふ. The piano accompaniment concludes with sustained chords.

Partial view of the adjacent page showing musical notation and lyrics. Visible lyrics include: マカハタミ, ムカシを, ナクハナカ, ャ, つすか, すめる, みづ, あ, さゆふ.



大 龍 球 溪 歌  
ハ イ ス 曲

1. イ ク ト セ  
2. ひ か し を

ナ ク ハ ナ  
ひ か し を

カ  
あ

マ ガ ハ ノ ナ ナ ヤ キ モ ナ レ ニ シ  
か た み に て を と り て あ そ び し

ム ガ シ ニ カ ハ ヲ ネ ド ア レ タ ル  
と も び と い ま い づ こ び し き

ワ ガ イ ヘ ヲ ス ム ヒ ト タ ニ ナ ナ  
ふ る さ と や さ び し る わ が い へ

シ ャ



一五五 故郷の廢家

一 幾年放遊 来て見れば  
笑く花 鳴く鳥 さまざま風  
門邊の小川の さまやきも  
馴れに昔に 變らぬど  
定れたる 我家に  
住む人 絶えてなく。

二 昔を語るか さまざま風  
昔を語るか 澄める水  
朝夕がなみに 手を取りて  
遊びし友人 今いづこ  
さびしき 故郷や  
さびしき 我家や。

三 山のおんなの 故郷よ  
あまの山戀し 毎戀し。

どうして 入りが遠くなる。  
三 山のおんなの 故郷よ  
あまの山戀し 毎戀し。

一五六 夜 更

一 夜更けて 空にお月張  
誰には蛙が からころころ  
宿の煙風に そよそよと  
お星も空で きら／＼きら  
森では鳥が ほう／＼ほう  
波だつ潮の漣 さわ／＼と  
また／＼お星は きら／＼きら。

一五七 演習

一 彼方の山邊 松林  
かしこの同窓 杉木立  
チラ／＼見ゆる 柳かげは  
此方に寄する 敵の軍勢  
進め／＼いざ進め

さらば故郷 故郷をさらば  
一六五 初雪  
一 ちらり ちらり ちらり ちらり  
ちらり ちらり ちらり ちらり  
あれ／＼空の 何處からか

さらば故郷 故郷をさらば  
一六五 初雪  
一 ちらり ちらり ちらり ちらり  
ちらり ちらり ちらり ちらり  
あれ／＼空の 何處からか

一五八 勇 氣

一 志はず 退却せず 美断果決  
事をば行ふ ことはこれ勇氣  
義を見て爲さぬは 男兒の耻と  
古語も云はずや 勇氣ぞ實。

二 恐れずひるまず 泰然自若  
難きを断せざる こそこれ勇氣  
得大成敗 論する勿れ  
超て／＼男兒は 勇氣ぞ實。

一五九 豊臣秀吉

一 鹿遊びに 里の子が  
膝を争ふ 中村の  
水田の蛙に 蛟龍の  
傳むと誰か 知りたりし。

二 千生飄零の 馬印  
向ふ方には 敵もなく  
六十餘州 うちなびき  
たちまち治る 天が下。

三 聯袂なほも 西に張り  
鶴林八道 せめうてば

からころろと 急ぎ行く  
人の下駄音 なくなると  
夜啼きうどんの 鈴の音。  
二 鈴の響に ついでには  
うしろそばの 寒い聲  
それも遠くに なくなると  
あはれ戸に 風の音。

からころろと 急ぎ行く  
人の下駄音 なくなると  
夜啼きうどんの 鈴の音。  
二 鈴の響に ついでには  
うしろそばの 寒い聲  
それも遠くに なくなると  
あはれ戸に 風の音。

からころろと 急ぎ行く  
人の下駄音 なくなると  
夜啼きうどんの 鈴の音。  
二 鈴の響に ついでには  
うしろそばの 寒い聲  
それも遠くに なくなると  
あはれ戸に 風の音。

からころろと 急ぎ行く  
人の下駄音 なくなると  
夜啼きうどんの 鈴の音。  
二 鈴の響に ついでには  
うしろそばの 寒い聲  
それも遠くに なくなると  
あはれ戸に 風の音。

一六〇 太田道灌

一 七重八重 花は咲けどもみの一つ  
なきを悲しめ 山吹の  
一枝折りて 挿げける  
小女の才に 身を恥ぢて  
和歌にいそしむ 武士ゆかし。

二 遠くなり 近くなるみの漢や鳥  
鳴く音に知ると 古の  
和歌の心を そのまゝに  
湖の手浦を 知りあてし  
駒を進めし 武士ゆかし。

一六一 徳川家康

一 三つ葉の 若葉より  
高き薔りは 常なるす  
天が下を 蓋ひつる  
赤ざし見せたる 安部川原。  
二 離伏年あり 時來ぬと  
死をば恐れぬ 三河武士  
手勢すぐりて 七萬騎  
鎧削りし 關ヶ原。

一六二 名古屋城

一 赤地錦の 陣羽織  
扇かざして 清正が  
音頭取りて 引きつゝも  
城の石垣 掃ぎなく

二 山も野邊も 女がれて  
ながめいとささびし  
風のさけふ 枯枝に  
からすのさのめかなし。  
三 山も野邊も 冬がれて  
ながめいとささびし  
雨かき かもはする

二 山も野邊も 女がれて  
ながめいとささびし  
風のさけふ 枯枝に  
からすのさのめかなし。  
三 山も野邊も 冬がれて  
ながめいとささびし  
雨かき かもはする

二 山も野邊も 女がれて  
ながめいとささびし  
風のさけふ 枯枝に  
からすのさのめかなし。  
三 山も野邊も 冬がれて  
ながめいとささびし  
雨かき かもはする

二 山も野邊も 女がれて  
ながめいとささびし  
風のさけふ 枯枝に  
からすのさのめかなし。  
三 山も野邊も 冬がれて  
ながめいとささびし  
雨かき かもはする

一六三 霜夜の鐘

一 葉の破れ葉の そよぎもをやみ  
野かに落つる 木々の葉の  
音もあびしき 書よむ恋に  
響くよ聲は 霜夜をわたり。  
二 池の葦中に 映れる月の  
影さへ氷れる 秋の夜に  
獨りさびしく 書よみ居れば  
ひびく鐘は 餘韻をひきこ。

一六四 故郷を離るゝ歌

一 國の小百合子 垣根の千草  
今日は汝を眺むる 終りの日なり  
思へば涙 膝を浸す  
さらば故郷 さらば故郷  
さらば故郷 故郷さらば  
二 土筆摘みし 丘邊よ 社の森よ  
小船釣りし小川よ 柳の土手よ  
別るゝ吾を 哀れと見よ  
さらば故郷 さらば故郷  
さらば故郷 故郷さらば  
三 此處に立ちて さらばと  
別れを 告げん  
山の蔭の故郷 靜かに眠れ  
夕日は落ちて 黄金たり  
さらば故郷 さらば故郷

二 山も野邊も 女がれて  
ながめいとささびし  
風のさけふ 枯枝に  
からすのさのめかなし。  
三 山も野邊も 冬がれて  
ながめいとささびし  
雨かき かもはする

二 山も野邊も 女がれて  
ながめいとささびし  
風のさけふ 枯枝に  
からすのさのめかなし。  
三 山も野邊も 冬がれて  
ながめいとささびし  
雨かき かもはする

二 山も野邊も 女がれて  
ながめいとささびし  
風のさけふ 枯枝に  
からすのさのめかなし。  
三 山も野邊も 冬がれて  
ながめいとささびし  
雨かき かもはする

二 山も野邊も 女がれて  
ながめいとささびし  
風のさけふ 枯枝に  
からすのさのめかなし。  
三 山も野邊も 冬がれて  
ながめいとささびし  
雨かき かもはする

二 山も野邊も 女がれて  
ながめいとささびし  
風のさけふ 枯枝に  
からすのさのめかなし。  
三 山も野邊も 冬がれて  
ながめいとささびし  
雨かき かもはする

二 山も野邊も 女がれて  
ながめいとささびし  
風のさけふ 枯枝に  
からすのさのめかなし。  
三 山も野邊も 冬がれて  
ながめいとささびし  
雨かき かもはする

二 山も野邊も 女がれて  
ながめいとささびし  
風のさけふ 枯枝に  
からすのさのめかなし。  
三 山も野邊も 冬がれて  
ながめいとささびし  
雨かき かもはする

二 山も野邊も 女がれて  
ながめいとささびし  
風のさけふ 枯枝に  
からすのさのめかなし。  
三 山も野邊も 冬がれて  
ながめいとささびし  
雨かき かもはする

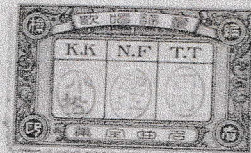
二 山も野邊も 女がれて  
ながめいとささびし  
風のさけふ 枯枝に  
からすのさのめかなし。  
三 山も野邊も 冬がれて  
ながめいとささびし  
雨かき かもはする

二 山も野邊も 女がれて  
ながめいとささびし  
風のさけふ 枯枝に  
からすのさのめかなし。  
三 山も野邊も 冬がれて  
ながめいとささびし  
雨かき かもはする



昭和六年十二月廿日印刷  
昭和六年十二月廿日發行

◇預約出版◇ 童話唱歌名曲全集  
第三卷・預約價 金貳圓八拾錢



編纂者 東京市芝區金杉新沼町二ノ二  
田 村 虎 藏

編纂者 東京市外杉並町荒井一八八四  
福 井 直 秋

編纂者 東京市外杉並町阿佐ヶ谷四八五  
小 松 耕 輔

發行者 東京市神田區渡路町二ノ二  
鈴 木 瓦

印刷者 東京市芝區金杉新沼町二ノ二  
單式印刷株式會社

代表者 和田朋一

發行所

東京市神田區渡路町二ノ二  
發售口座東京八三二六番

京 文 社

電話神田(30)三三九〇番  
三三九二番